

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和3年度病害虫発生予報第7号を下記のとおり送付します。

連絡先 石川県農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部 病害虫防除室
電話 076-257-6972 (直通)
FAX 076-257-9140
E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp

病害虫発生予報第7号

(予報期間：10月上旬～10月下旬)

予報内容

大 麦

オオムギ黒穂病類の発生は**多**と予想される。種子の消毒を実施する。

果 樹

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。降雨前後の薬剤防除、および罹病した果実の処分を徹底する。

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

※ 防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

気象予報

1か月予報 (令和3年9月23日付け 新潟地方気象台)

予報期間 9月25日～10月24日

[確率予報]

気温	低い	10%	平年並	20%	高い	70%
降水量	少ない	40%	平年並	40%	多い	20%
日照時間	少ない	20%	平年並	40%	多い	40%

[概要]

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、期間の前半はかなり高くなる可能性があります。

高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多く、降水量は平年並か少ないでしょう。

・9月25日(土)～10月1日(金)

天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

・10月2日(土)～10月8日(金)

天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

・10月9日(土)～10月22日(金)

低気圧と高気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 大麦の病害虫

オオムギ雲形病

発生時期	越冬後
発生量	少
予報の根拠	(1) 前作の発生は少 (-)
防除上の注意事項	(1) 種子の消毒を実施する。

オオムギ黒穂病類

発生時期	出穂後
発生量	多
予報の根拠	(1) 前作の発生は多 (+)
防除上の注意事項	(1) 種子の消毒を実施する。

2 果樹の病害虫

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (2) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除および罹病した果実の処分を徹底する。

3 野菜・花きの病害虫

軟腐病 (ネギ、ハクサイ、ブロッコリー等)

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 台風等による風雨および食葉性害虫の被害は本病の発生を助長するので注意する。

トマト灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1)現在の発生は並(±) (2)気温は高い(-) (3)降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1)耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

トマト葉かび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1)現在の発生は並(±) (2)気温は高い(-) (3)降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1)耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1)現在の発生はやや多(+) (2)フェロモントラップ誘殺数はやや多(+) (3)気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1)若齢幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1)現在の発生は多(+) (2)フェロモントラップ誘殺数はやや多(+) (3)気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1)若齢幼虫の防除を徹底する。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1)現在の発生は並(±) (2)フェロモントラップ誘殺数はやや少(-) (3)気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1)若齢幼虫の防除を徹底する。

コナガ (アブラナ科 : ダイコン、ブロッコリー等)

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) フェロモントラップ誘殺数はやや少 (-) (3) 気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。